四万十町

町内ぶら～り散策

瀬里（せり）

美しい瀬のある里という意味があったのだろうか。「せり」は、その名の響きも美しい。織田信長や豊臣秀吉らが活躍した戦国時代の検地帳には、すでに「瀬里村」「セリ村」とあり、この時代にはすでに、瀬里谷川が四万十川にそそぐこの地域で、たくさんの人が農耕を中心にした生活をしていたことがうかがえる。

道の駅大正から国道381号を窪川方面に向かうと、すぐに予土線の鉄橋をくぐる。その辺りからが瀬里である。しばらく続く直線の右手に集成材工場があり、壁面に可愛らしい看板が目に飛び込む。少し急な左カーブを曲がり道路が下っていったところに、希ノ川方面への大橋がかかっている。ここが集落の境。

現在16世帯、約36人が暮らしている。四万十川とその北側にある山に挟まれた長細い地形であるため、広大な農地が少なく、昔から専業農家がほとんどなかった。

さて、瀬里は風が強いところなのだそうだ。冬には、雪が川から吹き上がってくるらしい。強い雨の時には、山から流れ出る水が道路や川に落ち、そのしぶきが吹き上がってくるほどだという。

ところで、この地区もまた子どもが少なくなったという。ほんの10年ほど前まではそれなりに、あちらこちらで子どもの声が聞こえたが、今ではほとんど子どもの声は聞こえなくなったと、地区の方が寂しがっておられた。夏休みには毎朝、貯木場（現在の集成工場）でラジオ体操が行われていたのだそうだ。

まだ子どもの声がにぎやかに聞こえていた頃に、地区の方たちの要望で、国道のこの地区の直線は、追い越し禁止の黄色いラインがひかれた。田野々方面から続く追い越し禁止区間のカーブが、ようやくこの地区で直線になり、そこで、どうしてもドライバーたちの速度が上がる。子どもたちの活動エリアとしては危険であると心配した大人たちによってひかれた、地区の子どもたちを守るための黄色いラインである。

地区の子どもたちを守るために
ひかれた黄色いライン

今は水量が少なくなった瀬里谷川

町のうごき

(5月31日)	人口	前月比
男	8,933	−12
女	10,022	−11
計	18,955	−23
世帯数	8,779	−4

	出生	死亡	転入	転出
男	6	20	17	15
女	3	11	17	20
計	9	31	34	35

（5月中の届出）

四万十川の水質状況

	適正値(mg/l)	6月11日
リン酸	≦ 5.0	測定値以下
硝　酸	≦ 0.5	測定値以下
アンモニウム	≦ 5.0	測定値以下
アニオン活性剤	≦ 1.0	0.750
化学的酸素消費量	≦10.0	測定値以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス http://www.town.shimanto.lg.jp/ ●

※広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。（pdfファイル）

四万十町通信
2013.7月号
Vol.88（毎月10日発行）
●編集・発行／四万十町企画課　●取材・印刷／窪川印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町茂串町三番二号　☎（0880）22-3124